

mono

モノガタリ

語り

北海道で生まれた様々なモノたち。そこには、どんな想いが込められているのだろうか。作り手の熱き情熱、その物語り。



企画元

有限会社
クリンアイデアル

札幌市東区
本町1条4丁目5-18

〈〈〈
クリンアイデアル
代表取締役社長
山道裕樹

平成8年、父親の急逝により後を引き継ぎ、2代目社長となる。関係会社のユニフォームレンタル・リースなどを手がける有限会社アイデアル取締役。1970年生まれ、札幌市出身。

販売元

株式会社GEL-Design

札幌市西区発寒14条1丁目1-34



北海道産米粉を100%使用したエコな業務用洗濯のり

「米(マイ)スターチ北海道」

クリーニング屋で洗濯してもらったYシャツで、首周りが痒くなったり赤くかぶれたりする人が結構いる。それは大半が化学のりによるものだそうだ。

札幌市内で4軒のクリーニング店を展開する有限会社クリンアイデアルが考え出したのは、「肌」に優しい洗濯のりだった。利用者からの声もさることながら自身も洗濯のりで肌がかぶれる経験をしてきた山道裕樹社長は、北海道産の安心な業務用洗濯のりを作りたいとの想いを長年持ち続けてきた。

「飲食店などでは北海道の食材にこだわって料理をお客様に提供しています。我々のクリーニング業界もそうしたこだわった取り組みができないものかと、ずっと考えていたんです。もちろん原材料は北海道産のもので」

2009年2月にさっそく行動に出る。北海道大学の機能性ジェル素材の実用化を推進する研究開発型ベンチャー企業である株式会社GEL-Designに企画を持ち込んだ。同社はスキンケア商品を製造・販売している実績があり、アポなしで訪問し、思いのたけをぶつけたという山道社長。その熱き想いに応えるように開発が始まった。

まずはでんぷんの選定。トウモ

ロコシや小麦、馬鈴薯などの中から選ばれたのが「米粉」だった。米のでんぷんは非常にきめ細かいのでのりとしても優秀、更に仕上がりのイメージが一番良かったのが決め手となった。

試行錯誤の末、同年10月、100%道産米粉で作った洗濯のり「米スターチ北海道」が誕生。コンセプトは、環境に優しい、使う人に優しい、着る人に優しいという「優しさ」。完成までには苦労も多かった。

「小さな工場の中で何度も何度も試作を繰り返し返しました。8月の暑い時期に最初のサンプルが出来上がってきたんですが、一晩置いておくとどろどろになり、腐ったヨーグルト臭。クリーニング工場はただでさえ暑い。あれには参りました」
当時を振り返って山道社長は笑う。原材料は殆ど食べられるものなので、いかに腐敗・沈殿を防ぐか、また粘度の問題をクリアにするために試作を繰り返した。

現在は大手クリーニングチェーンが数社採用しており、全国からも問い合わせが来ているそうだ。今は業務用のみの販売で、残念ながら一般販売はしていない。今後は一般販売もできるような商品も考えているとのこと。山道社長の挑戦は続く。